

第69回経営協議会議事要録

日 時 平成29年11月16日（木）13:00～14:20、
15:30～16:30

場 所 国際交流会館 第1・第2会議室

出席者 浅野哲夫（議長）、寺野稔、松澤照男、小松悌厚、黒田壽二、永井由佳里、
川西俊吾、相澤益男、岩澤康裕、加藤邦紘及び平澤冷の各委員

欠席者 岩野和生、久和進、澁谷進及び谷本正憲の各委員

オブザーバー 西関隆夫監事、三谷明子監事、神田陽治学系長、東条敏学系長、
塚原俊文学系長及び吉田雅英石川県企画振興部課長

議事に先立ち、議長から、事前に送付した平成29年9月21日開催の第68回経営協議会の議事要録（案）について、資料1に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

議 事

<審議事項>

1 学内規則の一部改正等

- ・ 個人情報管理規則の一部改正等について
総務課長から、個人情報管理規則の一部改正等について、資料2に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
- ・ 基金規則の一部改正について
総務課長から、基金規則の一部改正について、資料3に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
- ・ 職員就業規則等の一部改正について
金子副理事から、職員就業規則等の一部改正について、資料4に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

<報告事項>

1 平成29年度補正予算について

会計課長から、平成29年度補正予算について、資料5に基づき報告があった。

(学外委員からの意見等)

- ・学生数の増加が結果として収入の増加に繋がった。今後更に学生数が増加する状況を維持するためには、学生の教育環境を魅力的なものにしていくことを前面に打ち出すと良い。それに併せてインフラを強化し、学外にも強いメッセージとして発信していただきたい。
- ・情報セキュリティインシデントの対策強化に学内の研究成果を活用するのではなく、民間企業のシステムを導入するのは残念。また、ここ10年来大学をターゲットにしたインシデントが後を絶たないが、大学が被害に遭った場合、マスコミの興味の対象になり、イメージダウンになる。J A I S Tには情報セキュリティ分野の優れた研究者がいるので、研究成果をセキュリティ対策に活用してほしい。

2 平成29年度科研費採択状況について

佐藤副理事から、平成29年度科研費採択状況について、資料6に基づき報告があった。

3 入学定員充足率等について

教育支援課長から、入学定員充足率等について、資料7に基づき報告があった。

(学外委員からの意見等)

- ・留年率や、博士後期課程学生の民間企業への就職率等のデータも経営協議会に出してほしい。学生の問題と一研究科構想の2つの柱の進捗状況を経営協議会委員が確認する必要がある。学生の問題と一研究科構想の現状及び今後の見通しについて、できれば経営協議会で毎回議題として挙げてほしい。

4 職員給与規則等の一部改正について

金子副理事から、職員給与規則等の一部改正について、資料8に基づき報告があった。

5 最近の本学の活動状況について

大学戦略・広報室長から、最近の本学の活動状況について、資料9に基づき報告があった。

6 最近の本学に関する新聞報道について

大学戦略・広報室次長から、最近の本学に関する新聞報道について、資料10に基づき報告があった。

<その他>

1 領域の見直し及びカリキュラム改革の検討状況について

寺野理事及び永井副学長から、領域の見直し及びカリキュラム改革の検討状況について、口頭で説明があった。

(学外委員からの意見等)

- ・領域の見直しについて、研究面に重点を置いているように見受けられるが、学生の人生に関わる教育面に重点を置いていただきたい。研究領域を最初に決めても領域はどんどん変わっていくものである。また、その研究領域を理解できるようになるということは、学生のキャリアにとってどの程度有効なのか。一番基本となる所をもう少し議論していただきたい。
- ・領域を見直す際に、どういうコンセプトなのかを明確にして、それに見合ったものを作り替えていかないといけない。研究面に重点を置くのであれば、もっと魅力的な教員を抱えて良いと思う。
- ・学長が考えている J A I S T の学生像が明確に打ち出された。教育のビジョン、どういう学生を育成したいかが最初にあり、そのために領域を教育の基盤としてどう構成するかがロジカルに整理されなければならない。また、大学院なので、最高の研究環境で教育することは重要で、研究と教育がオーバーラップしても良い。最高の研究環境の元で、研究は世界最高水準を目指し、教育は教育のエクセレンスをそこで実現していくことは何の問題も無い。両者が重なることは、当然、学生に対する魅力にもなる。
- ・カリキュラム改革については今後も引き続き経営協議会で議論していくべきである。一研究科構想には、活発に色々な分野を渡り歩いて勉強するタフな学生を育てるという教育面と、境界領域的な新しい研究を行うという研究面があり、それをある程度の周期でダイナミックに見直していくことが重要だと思う。教育、研究、ダイナミズムの3つを変えていくことをビフォア・アフターで示していただきたい。
- ・カリキュラムの改革は大変だと思うが、一研究科にし、改革をする以上は、理事が積極的に副学長（教育改革担当）をサポートし、改革を断行すべき。J A I S T 発の新たな教育を行っていただきたい。
- ・基礎、基盤を身につけることと新しい領域を拓いていくことの2点を考えながらカリキュラム改革を行っていただきたい。
- ・平成31年4月には改定していただきたい。
- ・毎年、部分的に改定していけば良い。
- ・何をいつまでに、どこまで行うのか、先の計画をどうするかを明示して進めると分かりやすくなる。

2 次回の開催について

議長から、次回の本協議会の開催を平成30年3月15日（木）に予定している旨の説明があった。

資料

- 1 第68回経営協議会議事要録（案）
- 2 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学個人情報管理規則の一部改正等について（案）
- 3 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学基金規則の一部改正について（案）
- 4 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学職員就業規則等の一部改正について（案）
- 5 平成29年度補正予算
- 6 平成29年度科研費採択状況について
- 7 入学定員充足率等について
- 8 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学職員給与規則等の一部改正について（案）
- 9 最近の本学の活動状況について
- 10 報道された本学関係記事